

所 属・職 位	医学部医学科医学微生物学講座・教授	
氏 名	松浦 恵子 (Matsuura Keiko)	
取 得 学 位	博士 (医学)、大分医科大学、1992年12月	
SDGs 目標	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も	

研 究 分 野	医学 ダイバーシティ
研究キーワード	腎癌, 悪性, ノックアウトマウス, 適正飲酒, ダイバーシティ
研 究 内 容	1. 悪性度腎癌のゲノム解析とHippoパスウェイノックアウトマウス作成 腎臓にできる癌の約80%を占める淡明細胞性腎細胞癌は、組織学的に低悪性度と高悪性度に分類され、その予後は全く異なる。ゲノム解析により高悪性度腎細胞癌は14番染色体に欠失が認められ、SAV1遺伝子の発現低下が悪性化をもたらしていることが示唆された。SAV1遺伝子がコアコンポーネント(主要因子)の一つであるHippoパスウェイというシグナル伝達経路の異常(右図OFF)をもたらしていることがわかった。そこでHippoパスウェイを腎臓特異的に働かないようにしたSAV1ノックアウトマウスを作成したところ、腎尿細管の異型増殖がみられた(右図矢印)ことから、Hippoパスウェイの異常は腎癌悪性化に関わる可能性が見いだされている。 2. 適正飲酒のための臨床研究 飲酒後の自覚症状や他覚検査による臨床研究を行い、適正飲酒の推進を目指している。 3. ダイバーシティの推進 大分大学ダイバーシティ推進本部長として、企業等と連携し地域でダイバーシティを推進している。共同研究等を通じた女性研究者・技術者のキャリアアップ、ダイバーシティ・男女共同参画に関する意識改革、セミナー、教育、意識調査、女性医療人支援等を行っている。
研 究 業 績・アピールポイント	1.Hippo pathwayの腎臓特異的ノックアウトマウスを作成・解析中である 【代表的論文】 1) Nakada C et al. J. Pathol., 251(1), 12-25 2020. 2) Takahashi M et al, Cancer Sci., 107(4): 417-23, 2016. 3) Kai T et al, J. Pathol., 239(1): 97-108, 2016. 4) Matsuura K et al, Histopathology,64(2), pp306-309, 2014 5) Narimatsu T et al, Cancer Medicine, Oct 15., pp1-13, 2014 6) Matsuura K et al, BMC Cancer, 20;11(1):523, pp1-10, 2011 7) Inoue T et al, Cancer Sci, 103(3), pp569-576, 2011 8) Yoshimoto T et al, J Pathol, 213, pp392-401, 2007 2. UMIN-CTR臨床試験「麦焼酎の代謝に関する研究 ―アルコール摂取後の呼気中濃度と精神運動機能の経時的変化―」 3. 令和3年度 第5回日本ダイバーシティ学会 大会長 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「平成29年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」プロジェクトリーダー

